丸山湿原群保全の会会報

（第 111 号）

発行日：平成 28 年 10 月 13 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
連絡先　090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

９月からの長雨の影響で稲刈りは、泥との格闘。こんな年は、必ずといっていいほど、コンバインのトラブルにつながります。慎重に慎重にと思いながら、しくじって機械を壊してしまうものです。今年はなんとかうまく乗り切ることができ、無事お米となりました。

今は黒豆の枝豆シーズンです。ぜひご賞味を！

今朝の西谷の気温は 10℃。（７：００）ヒーターの登場です。ちゃんと冬になるのかな？

（今住　10 月 11 日作成）

活動報告

★9 月 25 日（日）晴　（掲載写真は全て当日丸山で撮影したものです。）
定期活動 4 名参加　ササ刈り少々・冬の保全計画下見・キノコの山

最初にササで覆われたエントランスにある案内看板が見えるよう、**ササ刈りを少々。手刈りで。**

稲刈り用の鋸鎌はササ刈りにもってこいです。機械を使うのは少々・・・という方にはおすすめ。数をそろえる予定ですので、ぜひ活用お願いいたします。しかし、手を切るときは鋸で切るのと同じですので要注意。以前えらい目にあったことがあります。（稲刈りで）

【湿原までの道】

８月の少雨と打って変わり、長雨の影響か丸山周辺（どこの山も？）キノコの山になりました。

名前はブログでは適当につけていますが、不明。絶対安易に食べないこと！

昆虫・植物

ウメバチソウ

ウメバチソウが開花し始めていました。おそらく最盛期は１０月の中旬ごろ。花期の長い花なのでぜひ観察してください。雄しべ先熟の達人（達植物？）です。説明は巻末に。

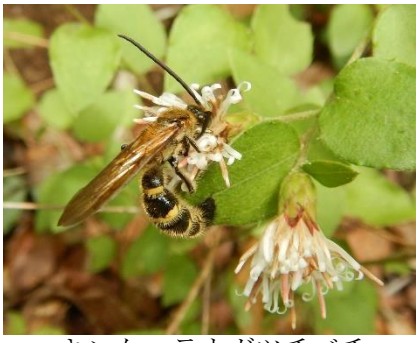
ツルニンジン（ジイソブ）

ツルニンジンもたくさん花を咲かせていました。条件がよかったのか、保全の成果か？（歩道沿いの草刈りを控えています・・・サボって・・・？）いずれにせよ数が増えたのは事実。調整しながらバランスをとっていきましょう。

ミヤマガマズミの実

秋を実感させるのは、木々の赤い実。**ミヤマガマズミやウメモドキ**の実。赤く目立つことによって鳥のエサとなります。種は消化されず、糞とともにばらまかれるという戦略。大地に根を張り動けない分、植物は動くもの（動物・昆虫）を利用し、命をつないでいく。生物が多様であればあるほど、戦略は複雑に立てられるのか？環境変化にも様々な選択肢を利用できるのでは・・・。

ウメモドキの実


キンケハラナガツチバチ

枯れかけた**キノコの裏には糞虫**（食糞群　以前会報でセンチコガネを紹介）**クロマルエンマコガネ**が。腐りかけの物も大好きのようです。まさしく人間から見ればもの好きとしか言いようがありません。が、またこれが連鎖の一部を作っているのでしょうね。

クロマルエンマコガネ

その証拠に、コウヤボウキの蜜を吸っていた**キンケハラナガツチバチは甲虫の幼虫に卵を産み付ける寄生蜂**。糞虫の幼虫も餌食になっているかも。土の中の幼虫をどうやって探すのでしょうね。ミラクルな世界です。

【冬期活動計画の下見】

総会で提案した、第３湿原の復元（創出？）の下見をしました。水の染み出し口・流れから、どの位置に横木を据えると、水が全体（広い範囲）に回るようになるか。水量が少ない状態が多い場所なので、うまく行くかは不明。１２月実施予定です。土木作業になると思います。ご協力を。

また、第２湿原の視点場からの視界を確保するための枝打ちを県からお願いされています。

皆伐後、再萌芽した枝を切ります。かなりのマンパワーが必要と思われます。１月末実施予定。こちらも会員以外も含め声掛けを行います。よろしくお願いします。

第３湿原

★10 月８日（土）定期活動　晴
4名で活動。定期基礎調査、巡回、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	17	12
ハイキング	8	1
その他	1	0

来場者数　　計 38 人

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度
入口	10：10	25.7℃	
視点場	11：15	25℃	
第３湿原	10：50	【20.5℃】	24μS/cm
第１湿原	11：30	【22.5℃】	23μS/cm
第２湿原	12：00	【22.1℃】	27μS/cm

【湿原までの道】

駐車場近くの**フェンスにツルニンジン**が咲いていました。ここは夏（８月）に会員が草刈りをした場所です。ツルニンジンにいい環境が生まれたのか、この場所で開花を確認するのは初めてです。機械ではなく**手刈りがよかった**のかもしれません。刈り払い機（草刈り機）はどうしても草を短く刈り取りすぎます。全ての植物にダメージを与えます。効率ばかりを求めるのも考え物かもしれません。でも便利です・・・。TPO を考えての使用でしょうね。

フェンスのツルニンジン

巻き付けられたモール

前回から多く観察されているツルニンジンですが、歩道沿いの株に奇妙な目印が。**赤いモールが８本も巻き付けてありました。**研究目的とも思えず。「花あり」の目印か？やはりふさわしくないと結論付け取り除きました。**ある意味ごみです。**自然愛好者ならよく考えて行動してほしいものです。

なぞのモール

イナカギク

道々には**イナカギク**が咲いています。別名「ヤマシロギク」。と名前を出してしまえば「シラヤマギク」があるからごちゃごちゃになります。**イナカギクで覚えましょう。**私にもよくわかりませんが、「ケシロヨメナ」との区別が非常に難しいとのこと。**「嫁に毛無し＝ヨメナに毛無し」**で教わったのに、毛のあるヨメナ（白）もあるのかと驚きです。

【湿原】

ウメバチソウがかなり咲いているはずなのですが、近くで見つけることができません。しかし、**スイラン**が花をつけていました。ランと名前がついていますが、キク科スイラン属の植物です。花期は短くすぐしぼんでしまいます。何気ない花、どこにでもあるような花ですが、**湿地の開発・水田の乾田化（圃場整備）で急速に数を減らしています。12 の府県で RDB に記載されています。**

気が付いたら、大切なものがなくなっている。今の社会とよく似ているような。自然が警告してくれているのではと考えてしまいます。

スイラン

西谷小学校環境学習２回目の受け入れが 10 月 21 日（金）に実施されます。駐車場 9:30 集合。
参加できる方はご協力を！（水田さん・岩﨑さん・辰巳さん対応）
次回活動日 10 月 23 日（日）11 月 12 日（土）27 日（日）。参加よろしくお願いします。

今回（１０月）の植物（写真は玉瀬地内で以前に撮影）

【ウメバチソウ】雄しべ先熟

ウメバチソウは巧みな雄しべの展開をする。

開花初めの花、中から飾り雄しべと未成熟な雄しべと雌しべが見える。

飾り雄しべは、雄しべが退化（進化？）したものと言われ、花粉は出さない。純粋に虫をおびき寄せるためのものか？

蜜を出さないと図鑑には記載されていたが、飾り雄しべの生え際から蜜らしきものが出ていると最近報告されている。

ウメバチソウのつぼみと葉

１日目は開花のみで、本当の雄しべは展開しない。左側最初の 2 枚の写真は初日の花。１本の雄しべがスタンバイしているのがよくわかる。クモもスタンバイ OK！やはり匂うのか？

２日目の花。雄しべが１本展開している。この 1 本のみ花粉を出す。長期にわたり花粉を出すのが目的なのか、自家受粉を何としても回避するための作戦なのか。**５本の雄しべが１日１本ずつ開いていく。**職人技としか思えない。

飾り雄しべと本当の雄しべとの分かれ道も、どういう条件から生まれたのだろうか？

４日目の花。雄しべが３本展開。古い雄しべはすでに枯れたように。花によっては、葯がおちてしまうものも。

この後５日目に４本目、６日目に５本目の雄しべが広がっていく。この間に昆虫が訪れ、花粉を雌しべが成熟した株に運ぶと種子が誕生ということに。受粉の確率はよくわからないが、周りの環境次第では、群生するのでかなりの確率なのではないだろうか？（私の想像・考察です。賛同できる方は拍手を！）

雄しべ最終日。よく見ると飾り雄しべの生え際に黒い虫が。それを狙ってか、**ササグモ**がやってきています。

雌しべを見ると成熟し開きだしているのが確認できます。

今度は、虫が別の花の花粉を運んでくれるのを待つばかりです。